

会 議 議 事 録

1	会議名	平成30年度長岡市公立学校通学区域審議会
2	開催日時	平成31年2月12日（火曜日） 午前10時から午前11時45分まで
3	開催場所	さいわいプラザ 6階 大会議室
4	出席者名	<p>(委員)</p> <p>佐藤恭一委員長 小宮山多恵子副委員長 古川絹子副委員長 長谷川和明委員 田村恵子委員 河田吉之助委員 本田史朗委員 五十嵐俊子委員 田村優子委員 荒木清太郎委員 今井邦康委員 吉田隆夫委員 松井麻里委員 羽鳥仁一委員 星野紀子委員 佐藤義尚委員 三角幸恵委員 上村光一委員 大矢慎一委員</p> <p>(委員以外の出席者)</p> <p>金澤教育部長</p> <p>(事務局)</p> <p>佐藤学務課長 中山学務課長補佐 米山学事係長 小林学事係主査 鈴木学事係主事</p>
5	欠席者名	<p>長谷川朗委員 後藤恭司委員 石黒佳子委員 佐藤博文委員 小片真紀委員 樺澤和幸委員 池原百合子委員 竹内竜成委員 関谷祐二委員</p>
6	議題	<p>報告事項</p> <p>(1)長岡市立学校通学区域規則の一部改正について (2)学区外就学許可区域の設定について (3)学校規模適正化について</p>
7	審議結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・上記(1)(2)(3)について報告がされた。

8 審議の内容	
事務局 委員長	以下の議題については、委員長から進行をお願いしたい。 報告事項(1)の長岡市立学校通学区域規則の一部改正について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局 委員長	(資料 No. 1により説明) 報告事項(2)の学区外就学許可区域の設定について、事務局から説明をお願いしたい。
委員	(資料 No. 2により説明) 現在、日越小学校・西中学校に通っている児童生徒は、大島小学校・大島中学校に通うことになるのか。それとも、卒業まで日越小学校・西中学校に在籍してもいいのか。
事務局 委員長	保護者の意向により、学校を選択できるようにしたものである。 報告事項(3)の学校規模適正化について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局 委員長 委員	(資料 No. 3-1、3-2、3-3により説明) 岡南小学校の様子はどうか。 多くの保護者から「集団の中で学ばせたい」という声があった一方で、お年寄りからは「なぜ自分が学んだ学校が無くなるのか」という声が多かったが、「統合して良かった」が、子どもたちの感想だと思う。ほとんどの子どもが岡南保育園で一緒に過ごすため、低学年は違和感なく仲良く遊んでいたし、高学年も当初は馴染めない雰囲気もあったが、今では仲良くなり、競争心も芽生えているように見受けられる。
委員長 委員	旧六日市小学校の地域で聖火リレーやマラソン大会を行うなど、閉校した地域への配慮にも、地域のお年寄りは喜んでいる。 栃尾地域の様子はどうか。 中野俣小学校の統合については、栃尾南小学校との交流事業等もあり、スムーズにできたのではないかと思う。
委員長 委員	中野俣小学校では、広大寺という踊りを、地域の保存会と一緒に守ってきた。閉校した現在でも、地域の祭りで踊っており、今後も引き続き守ってくれると思う。一方、カワセミの池の清掃活動や、杜々の森のお茶会など、行わなくなったものもある。 閉校しても、敷地内には神社、参道、鳥居があり、今後も地域の核として残っていくのではないか。
委員長 委員	全体を通して、感想などを、お話しいただきたい。 統合について、子どもたちは前向きで、保護者が不安やネガティブに捉えている面があるように感じた。統合によるトラブルがあったと

委員	<p>しても、いずれは社会に出てさまざまな付き合いに直面することからも、早いうちから良い経験ができていたのでは、とも捉えている。</p> <p>学校と地域は深い繋がりがあり、統合は容易なことではないと思うが、このことについて大人が真剣に話し合っているかとなると、現役の保護者としても疑問がある。「昔はこうだった」など、残像を引きずっていることが、今の時代に合わないことがあると思うので、話し合いの場を作っていく必要があると感じた。</p> <p>一定の集団の中で切磋琢磨とあるが、一定の集団をどのように捉えるか、そのことに伴いスクールバスをどのようにするのかも、課題だと思う。</p> <p>また、各学校が培った文化の継承は、子どもたちだけでなく、地域で検討しなければならないと改めて感じた。</p>
委員	<p>人工知能（AI）の出現など、子どもたちは今後、新しい社会で生きていくなかで、複式学級がない環境が望ましいと思う。</p>
委員	<p>統合の検討にあたっては、学校が培った文化や、地域での活動の継承も大事に考える必要があると改めて感じた。</p>
委員	<p>石坂小学校の児童数が減っているなかで、地域の未来を考える会が立ち上がり、若手を中心にイベントを行うなど、地域を盛り上げる動きが出てきている。</p>
委員	<p>統合後の学校運営に対して、「教職員やPTAにまとまりがない」という保護者意見があったが、これを保護者が感じてしまうことが気になった。</p> <p>自分の地域では伝統的な活動がないので、栃尾地域の伝統を守る活動は素晴らしいし、子どもたちにとっても良い経験と感じた。</p>
委員	<p>地域では統合の話はないが、各関係者が連携して、子どもたちのために地域で何ができるかを考え、取り組んでいる。去年は豪雪のなか、通学路の確保に取り組んだ。今後、地域では、産業団地の造成やコミュニティセンターの移転改築など、新たな出来事があるが、課題を一つ一つ解決していこうという気運になっている。</p>
委員	<p>越路地域は2小学校だが、中学校で一緒になることから、蛍の保護活動を通して交流を行っている。</p> <p>小国小学校の統合を心配する保護者の声は聞いていた。太鼓や紙漉きなど、各学校で伝統や活動は異なるため、それぞれの文化をどう取り扱うかは、大きな課題だと感じた。</p>
委員	<p>和島地域では、複式学級を避けるために小学校が統合され、10周年を迎えた。子どもたち同士の付き合い方も、インターネットを介した</p>

委員	<p>ものに変化しているなかで、子どもたちの成長のためにも、ある程度の規模の中で切磋琢磨すること、そのために規模適正化を議論していくことが改めて大事だと感じた。</p> <p>栃尾地域で統合となると、児童数が少ない上塩小学校・下塩小学校が考えられるが、上塩小学校は立派な校舎であり、校舎の後利用も考える必要がある。また、別に行ったアンケート結果から、中学校への進学で今までの少人数から大人数に変わることについて、保護者が子どもに対して「大勢になって良かったね」や「大勢になって不安だ」など、どのような声掛けや態度で接しているかが、子どもたちにも影響しているようだ。また、部活動を理由に、長岡地域に転出するような例もある。様々な情報を総合して、学校規模適正化を考えていく必要があると感じた。</p>
委員	<p>子どもの教育環境として、一定の集団は必要だと思うが、大人が良かれと思っても、その環境が合わない子どもが当然出てくると思う。困難を乗り越えることで成長したり、他者との関係を築くことに繋がると思うが、そこには家族、学校や地域の愛情や見守りが大事だと思う。</p>
委員	<p>川口地域では、約10年前に3小学校が1小学校に統合した。心配もあったが、元々中学校は1つであり、子どもたちはすぐに仲良くなって、大人はそれに引っ張られて仲良くなっていった。</p> <p>子どもが減少し、これまで子どもたちが行ってきた行事を、親や年寄りが引き継ぐような集落もある。この縮小傾向に対して良いアイデアは思い付かないが、いずれはなんとかしなければならないと、皆が思っている。</p>
委員	<p>学校の立場として、各校長は「自分の学校が一番」と、特色ある学校づくりに取り組んでいる。小国小学校や岡南小学校も、保護者や地域の声を反映しながら、学校運営に取り組んでいるはずである。</p> <p>また、学校の役割として社会性の育成が重要だが、これを達成できるような規模が必要だと、どの校長も考えていると思う。</p> <p>地域と学校の連携だが、今後の学習指導要領の改訂において、社会に開かれた教育課程の編成が挙げられている。より良い社会の担い手づくりとして取り組んでいく一方で、子どもたちの文化活動を全て学校が担えるかという限界がある。子どもたちの文化活動は、地域との関わりが大きいいため、学校はもちろん、地域からも頑張っていたく部分がある。</p>
委員	<p>大積小学校の児童数が減少しており、保護者から「統合して集団生活を」との声もあったが、地域の話し合いにおいて、すぐに結論が出</p>

<p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員長</p>	<p>るものではなく、時間をかけて考えようということになった。</p> <p>地域では、小中連携や、3小学校の連携が密である。統合うんぬんではなく、まずは地域をどのように盛り上げていくか、地域で子どもたちに何ができるかを、連携して取り組んでいる。青葉台中では大積小学校の卒業生は数人だが、いじめや不登校はない。それは、3小学校の先生や保護者が仲が良く、連携が進んでいるからだと思うし、とても良い状況だと思っている。</p> <p>統合に対していろいろな意見があると思うが、「子どもたちのための統合」であるべき、と改めて思った。</p> <p>地域の小学校には複式学級があることから、このままでいいのか、2年前から地域で検討している。小規模だからこそ先生の目が行き届いて良いという意見もあれば、集団の中での切磋琢磨が大切など、さまざまな意見があり、話し合いを継続しなければ方向性が見えてこない状況である。いずれにしても、「子どもたちのために、何がいいのか」を根底に据えるべきと感じている。また、いずれは、中学校をどうするのか、という話も出てくると思う。</p> <p>学校と地域の連携としては、花いっぱい運動を児童生徒と地域が一緒になって取り組んでいる。</p> <p>以上で、議事を終了し、進行を事務局にお返しする。</p>
<p>9 会議資料</p>	<p>別添のとおり</p>